

無人自動運転移動サービス導入検証事業について

1 事業の背景

- ア 運転免許証を自主返納する高齢者や訪日外国人の増加等により、地域住民の日常生活や観光地等における移動を支える公共交通の確保・充実の重要性が増大している。
- イ 一方で、バス運転手の不足等により、地域住民や観光客の移動需要に応じたバス路線の確保・充実が困難な状況にある。
- ウ こうした中、「官民 ITS 構想・ロードマップ」では、R7 (2025) 年を目途に限定地域（過疎地等）での無人自動運転移動サービス (Lv4) の全国普及等に向けて、社会全体での連携体制が求められており、産業界は技術開発、国は法制度整備、地方公共団体は住民や交通事業者を巻き込んだ機運醸成等の役割が期待されている。
- エ 一方で、県内では、H29 (2017) 年度に道の駅にしかた、R 元 (2019) 年度に宇都宮市大谷地区において実証実験が実施されたが、限定的なものにとどまっており、無人自動運転移動サービスの本格導入に向けて更なる取組が必要である。

2 事業の目的

- ア 県内の各地域が抱える様々な社会的課題の解決に向けて、無人自動運転移動サービスによる今後の可能性を探る。
- イ 県内の公共交通において自動運転システムが導入された際に、利用者に安心して利用してもらえるよう、県内における社会的受容性の醸成を図る。
- ウ 無人自動運転移動サービスの全国普及を見据え、県内の公共交通における自動運転システムの導入に向けた課題の整理、必要なノウハウの蓄積等を図る。

3 事業の概要

(1) 事業期間

R2 (2020) 年度～R5 (2023) 年度

(2) 事業内容

ア 実証実験の実施

- 自動運転システムのレベル、地域の特徴、道路の形状、実施の時期等の様々な条件を考慮し、段階的にレベルアップを図りながら、実証実験を実施する。
- 事業期間中における実証実験の計画を策定し、計画的に実証実験を実施する。

イ 県民の理解促進

- 実証実験を実施し、県民の乗車体験機会を創出するなど、県内における機運の醸成を図る。
- 新型コロナウイルス感染症の状況を見極めつつ、SNS等も有効に活用しながら、効果的に普及啓発を行う。

| | R2 (2020) | R3 (2021) | R4 (2022) | R5 (2023) | R6 (2024) | R7 (2025) |
|------|---------------|--------------|-----------|-----------|-----------|---------------|
| 国の動き | 限定地域 (Lv4) 実施 | | | | | 限定地域 (Lv4) 普及 |
| 実証実験 | 茂木町 実証実験 | (段階的にレベルアップ) | | バス路線 実証運行 | -----> | バス路線 本格運行 |
| 理解促進 | (機運醸成) | | | ▶ | -----> | バス路線 本格運行 |

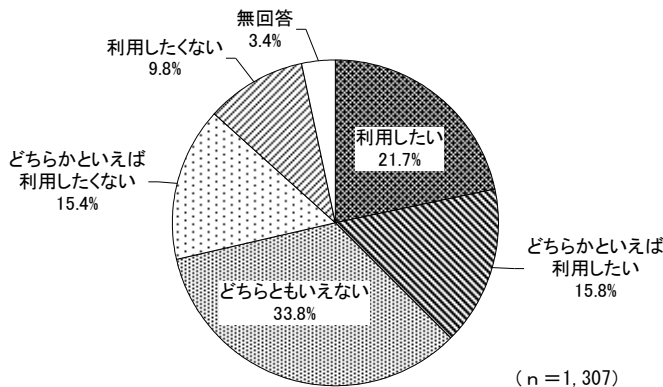
《参考》R2（2020）年度栃木県政世論調査結果

1 調査概要

- (1) 調査地域 県内全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の男女2,000人
- (3) 調査時期 R2（2020）.6.15～R2（2020）.7.7
- (4) 回収数（率） 1,307人（65.4%）

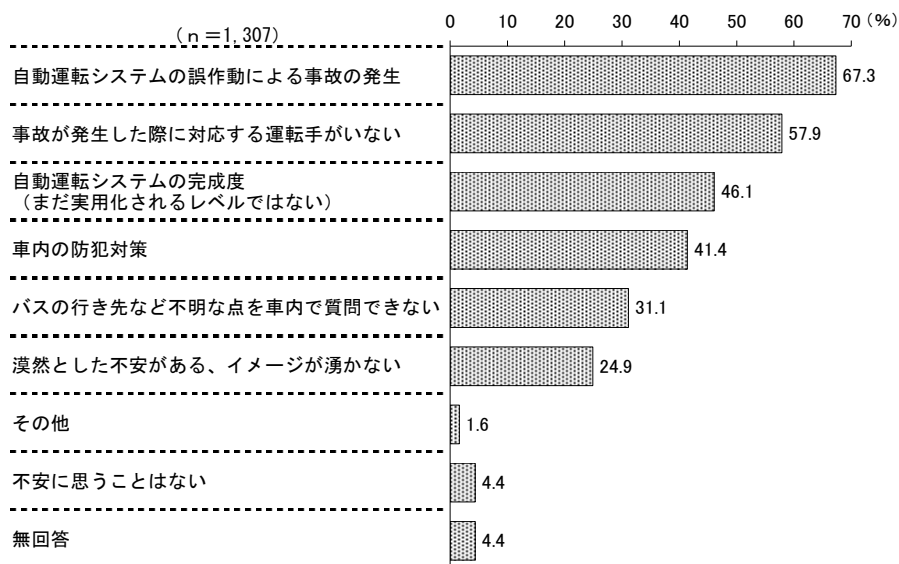
2 調査結果（抜粋）

(1) 自動運転システムが導入された路線バスの利用意向（単一回答）



- ・ 『利用したい』（「利用したい」と「どちらかといえば利用したい」の合計）が約4割（37.5%）となっている。
- ・ 一方で、『利用したくない』（「どちらかといえば利用したくない」と「利用したくない」の合計）が約4分の1（25.2%）、「どちらともいえない」が約3分の1（33.8%）となっている。

(2) 路線バスに自動運転システムを導入することへの不安（複数回答）



- ・ 「自動運転システムの誤作動による事故の発生」が約7割（67.3%）で最も高く、次いで「事故が発生した際に対応する運転手がない」（57.9%）、「自動運転システムの完成度（まだ実用化されるレベルではない）」（46.1%）の順となっている。
- ・ 「不安に思うことはない」（4.4%）は極めて低く、大多数の方が何らかの不安を感じている。